

Lesson 14 「形容詞②」

ねらい

形やようすを表す語のつづりと発音を理解させる。
形容詞の使い方の理解を深めさせる。

※単語編Book①Lesson 10のピクチャーカードが使えます。

所要時間	指導内容	留意点
5分 (復習)	L13 ① (031) の音声を聞かせて発音練習をさせます。 聞くだけ (またはサイレントシャドーイングかマンブリング) → 一斉発音練習の順に行います。 宿題の確認 (音声を聞いた曜日に○がついているか) をします。	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストを見ないで音声に集中させましょう。 ・音声を聞きながら、声に出さずに口真似だけさせたり、小声で繰り返させたりしましょう。 ・発音練習は、一斉で行い、だいたいできていればよしとし、じょうずに発音できた生徒をほめてあげましょう。 ・宿題が見えるように机に該当ページを広げさせ、発音練習をさせている間に机間巡視で宿題の確認をしましょう。
20分	L14 ①② (035) の音声を聞かせます。 1～3回聞いて音声に慣れたら発音練習をさせます。 聞くだけ (またはサイレントシャドーイングかマンブリング) → 発音練習の順に行います。 宿題 (③の単語を書いてくること) を出します。 単語の書き方について、文字と文字の間は空けず、語と語の間は少し空けることを確認させます。 L14 ①③ (036) の音声を聞かせます。 1～3回聞いて音声に慣れたら発音練習をさせます。	<ul style="list-style-type: none"> ・最初はテキストを閉じて音声に集中させ、次にテキストを見ながらつづりと発音を確認させましょう。 ・発音練習は一斉→グループ→個人 (順番) とパターンを変えて複数回行いましょう。 ・余裕があれば、先生が英語を発音して生徒に日本語の意味を答えさせたり、逆に先生が日本語を言って生徒に英語を発音させたりしてもよいでしょう。 (例 先生「big」生徒「大きい」) ・余裕があれば、ピクチャーカードを使って先生の英語の正誤判断をさせ、間違いを直させましょう。(例 先生「[長い [短い] のカードを示して] Long?」生徒「Yes. Long.[No. Short.]」)
15分	L14 ②の1 (small shoes)～4 (have an old car)について、最初に先生が発音し、次に生徒に発音させます。 動詞 have, want の意味と、〈動詞 + a[an] + 形容詞 + 名詞〉という語順を確認させます。 各生徒に、①②と③から単語を選ばせて、〈want a + old 以外の形容詞 + 名詞【単数形】か〈have an old + 名詞【単数形】〉の形で発音させ、意味を確認させます。 ここでは、「oldの前はanだよ」程度の説明にとどめます。 反応が鈍い場合や時間が足りない場合は 、先生が見本として一部を変えた組合せを発音し、生徒に繰り返させます。 たとえば、先生が3のbigをsmallにかえて「want a small bag」と言い、生徒に「want a small bag」を繰り返させます。	<ul style="list-style-type: none"> ・最初はテキストを閉じて先生の発音に集中させ、次にテキストを見ながらつづりと発音を確認させましょう。 ・1～4の発音練習は、一斉で行い、だいたいできていればよしとしましょう。 ・各生徒に単語を選ばせて発音 [発表] させるときは、どういう意味か、意味が合っているかを他の生徒に答えさせたり、できた語句の発音練習を一斉で行ったりして、他の生徒も活動できるようにしましょう。 ・〈want × a big shoes[pants]〉のように複数形を使ってしまった場合は、「shoes や pants のときはaをとろうね!」のように言って、正しい形に修正して発音練習をさせましょう。 ・余裕があれば、先生がピクチャーカードを使って変えた単語を示し、生徒に言わせましょう。たとえば、生徒が want a big bag と言ったあとに、先生が small のカードを示し、生徒に want a small bag と言わせます。
5分 (まとめ)	㉔ (クイズ) に取り組ませ、答え合わせをします。 正解を発音させます。 宿題 (①の音声を聞いて、聞いた曜日に○をつけること) を出します。	<ul style="list-style-type: none"> ・反応が鈍い場合や時間が足りない場合は、①にヒントがあることを教えて、正解を見つけさせましょう。 ・正解の発音練習は一斉で行いましょう。 ・㉔ (クイズ) に正解した生徒には巻末の「クイズ得点チェック表」の色塗りをさせましょう。

Lesson 15 「名詞⑤」

ねらい

学校にあるものを表す語のつづりと発音を理解させる。
aとanの使い分けを理解させる。

※単語編Book①Lesson 11のピクチャーカードが使えます。

所要時間	指導内容	留意点
5分 (復習)	L14 ①④ (035) と ② (036) の音声を聞かせて発音練習をさせます。 聞くだけ (またはサイレントシャドーイングかマンブリング) → 一斉発音練習の順に行います。 宿題の確認 (③の単語を書いたか音声を聞いた曜日に○がついているか) をします。	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストを見ないで音声に集中させましょう。 ・音声を聞きながら、声に出さずに口真似だけさせたり、小声で繰り返させたりしましょう。 ・発音練習は、一斉で行い、だいたいできていればよしとし、じょうずに発音できた生徒をほめてあげましょう。 ・宿題が見えるように机に該当ページを広げさせ、発音練習をさせている間に机間巡視で宿題の確認をしましょう。
20分	L15 ①④ (037) の音声を聞かせます。 1～3回聞いて音声に慣れたら発音練習をさせます。 聞くだけ (またはサイレントシャドーイングかマンブリング) → 発音練習の順に行います。 宿題 (③の単語を書いてくること) を出します。 単語の書き方について、文字と文字の間は空けず、語と語の間は少し空けることを確認させます。 L15 ①② (038) の音声を聞かせます。 1～3回聞いて音声に慣れたら発音練習をさせます。	<ul style="list-style-type: none"> ・最初はテキストを閉じて音声に集中させ、次にテキストを見ながらつづりと発音を確認させましょう。 ・発音練習は一斉→グループ→個人 (順番) とパターンを変えて複数回行いましょう。 ・余裕があれば、先生が英語を発音して生徒に日本語の意味を答えさせたり、逆に先生が日本語を言って生徒に英語を発音させたりしてもよいでしょう。 (例 先生「blackboard」 生徒「黒板」) ・余裕があれば、ピクチャーカードを使って先生の英語の正誤判断をさせ、間違いを直させましょう。(例 先生「[大学のカードを示して] Clock?」 生徒「No. College.」 先生「[絵の中の時計を指して] Yes. Clock.」)
15分	L15 ②の1 (an old clock) ～ 4 (have a computer) について、最初に先生が発音し、次に生徒に発音させます。 L3のアルファベットの小文字のうち、赤字(母音)の発音で始まる語の前では、aではなくanが使われることを説明し、oldはo(赤字)の発音で始まる語なのでanが使われることを理解させます。 各生徒に、①④と②から紫色の枠の語【形容詞】と水色の枠の語【名詞】を選ばせて、〈a + large か new + 名詞〉か〈an old + 名詞〉の形で発音させ、意味を確認させます。 反応が鈍い場合や時間が足りない場合は 、先生が見本として一部を変えた組合せを発音し、生徒に繰り返させます。 たとえば、先生が1のclockをcomputerにかえて「an old computer」と言い、生徒に「an old computer」を繰り返させます。	<ul style="list-style-type: none"> ・最初はテキストを閉じて先生の発音に集中させ、次にテキストを見ながらつづりと発音を確認させましょう。 ・1～4の発音練習は、一斉で行い、だいたいできていればよしとしましょう。 ・各生徒に形容詞と名詞を1つずつ選ばせて発音 [発表] させるときは、どういう意味か、意味が合っているかを他の生徒に答えさせたり、できた語句の発音練習を一斉で行ったりして、他の生徒も活動できるようにしましょう。 ・〈x a + old〉のように組合せを間違えてしまった場合は、正しい形に修正して発音練習をさせましょう。 ・余裕があれば、p.4「単語編の使い方」の3「アルファベットの読み方」で母音の説明をし、L12 ②のan English bookに言及して、EnglishもE (L2で赤字表記)の発音で始まる語なので、anが使われると説明してもよいでしょう。
5分 (まとめ)	㉞ (クイズ) に取り組ませ、答え合わせをします。 正解を発音させます。 宿題 (①の音声を聞いて、聞いた曜日に○をつけること) を出します。	<ul style="list-style-type: none"> ・反応が鈍い場合や時間が足りない場合は、①にヒントがあることを教えて、正解を見つけさせましょう。 ・正解の発音練習は一斉で行いましょう。 ・㉞ (クイズ) に正解した生徒には巻末の「クイズ得点チェック表」の色塗りをさせましょう。

Lesson 16 「名詞⑥」

ねらい

身の回りのものを表す語のつづりと発音を理解させる。
myとyourの使い方を理解させる。

※単語編Book①Lesson 12のピクチャーカードが使えます。

所要時間	指導内容	留意点
5分 (復習)	L15 ①④ (037) と ⑤ (038) の音声を聞かせて発音練習をさせます。 聞くだけ (またはサイレントシャドーイングかマンブリング) → 一斉発音練習の順に行います。 宿題の確認 (③の単語を書いたか音声を聞いた曜日に○がついているか) をします。	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストを見ないで音声に集中させましょう。 ・音声を聞きながら、声に出さずに口真似だけさせたり、小声で繰り返させたりしましょう。 ・発音練習は、一斉で行い、だいたいできていればよしとし、じょうずに発音できた生徒をほめてあげましょう。 ・宿題が見えるように机に該当ページを広げさせ、発音練習をさせている間に机間巡視で宿題の確認をしましょう。
20分	L16 ①④ (039) の音声を聞かせます。 1～3回聞いて音声に慣れたら発音練習をさせます。 聞くだけ (またはサイレントシャドーイングかマンブリング) → 発音練習の順に行います。 宿題 (③の単語を書いてくること) を出します。 単語の書き方について、文字と文字の間は空けず、語と語の間は少し空けることを確認させます。 L16 ①⑤ (040) の音声を聞かせます。 1～3回聞いて音声に慣れたら発音練習をさせます。	<ul style="list-style-type: none"> ・最初はテキストを閉じて音声に集中させ、次にテキストを見ながらつづりと発音を確認させましょう。 ・発音練習は一斉→グループ→個人(順番)とパターンを変えて複数回行いましょう。 ・余裕があれば、先生が英語を発音して生徒に日本語の意味を答えさせたり、逆に先生が日本語を言って生徒に英語を発音させたりしてもよいでしょう。 (例 先生「chair」 生徒「いす」) ・余裕があれば、ピクチャーカードを使って先生の英語の正誤判断をさせ、間違いを直させましょう。(例 先生「[いす [テーブル] のカードを示して] Chair?」 生徒「Yes. Chair.[No. Table.]」)
15分	L16 ②の1 (a big station)～4 (my new chair)について、最初に先生が発音し、次に生徒が発音させます。 myは「わたしの」という意味で、yourは「あなたの」という意味で、どちらも名詞といっしょに置いて使われることを理解させます。 各生徒に、①④と⑤から紫色の枠の語【形容詞】と水色の枠の語【名詞】を選ばせて、〈myかyour+名詞〉か〈myかyour+形容詞+名詞〉の形で発音させ、意味を確認させます。 反応が鈍い場合や時間が足りない場合は 、先生が見本として一部を変えた組合せを発音し、生徒に繰り返させます。 たとえば、先生が2のcupをdeskにかえて「my desk」と言い、生徒に「my desk」を繰り返させます。	<ul style="list-style-type: none"> ・最初はテキストを閉じて先生の発音に集中させ、次にテキストを見ながらつづりと発音を確認させましょう。 ・1～4の発音練習は、一斉で行い、だいたいできていればよしとしましょう。 ・各生徒に形容詞と名詞を1つずつ選ばせて発音[発表]させるときは、どういう意味か、意味が合っているかを他の生徒に答えさせたり、できた語句の発音練習を一斉で行ったりして、他の生徒も活動できるようにしましょう。 ・〈x a + my[your]〉のように間違えてしまった場合は、正しい形に修正して発音練習をさせましょう。 ・余裕があれば、aとmyとyourの使い分けの練習をさせましょう。たとえば、生徒にa cupと言わせたあとに先生が「わたしの[あなたの]カップ」と言い、生徒にMy[Your] cup.と言わせます。
5分 (まとめ)	㉞ (クイズ) に取り組みせ、答え合わせをします。 正解を発音させます。 宿題 (①の音声を聞いて、聞いた曜日に○をつけること) を出します。	<ul style="list-style-type: none"> ・反応が鈍い場合や時間が足りない場合は、①にヒントがあることを教えて、正解を見つけさせましょう。 ・正解の発音練習は一斉で行いましょう。 ・㉞ (クイズ) に正解した生徒には巻末の「クイズ得点チェック表」の色塗りをさせましょう。

Lesson 17 「あれは何ですか」

ねらい

近くにあるものや遠くにあるものについてたずねたり答えたりできるようにする。

※会話編Book①Lesson 12のピクチャーカードが使えます。

所要時間	指導内容	留意点
5分 (復習)	L16 ①④ (039) と ⑤ (040) の音声を聞かせて発音練習をさせます。 聞くだけ (またはサイレントシャドーイングかマンブリング) → 一斉発音練習の順に行います。 宿題の確認 (③の単語を書いたか音声を聞いた曜日に○がついているか) をします。	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストを見ないで音声に集中させましょう。 ・音声を聞きながら、声に出さずに口真似だけさせたり、小声で繰り返させたりしましょう。 ・発音練習は、一斉で行い、だいたいできていればよしとし、じょうずに発音できた生徒をほめてあげましょう。 ・宿題が見えるように机に該当ページを広げさせ、発音練習をさせている間に机間巡視で宿題の確認をしましょう。
10分	L17 ① (041) の音声を聞かせます。 1～3回聞いて音声に慣れたら発音練習をさせます。 聞くだけ (またはサイレントシャドーイングかマンブリング) → 発音練習の順に行います。	<ul style="list-style-type: none"> ・最初はテキストを閉じて音声に集中させましょう。 ・発音練習は一斉 (1文ずつ→1発言 [セリフ] ずつ) → グループ (半分サム役, 半分めぐみ役→役入れ替え) のようにパターンを変えて何回も行いましょう。
15分	L17 ② (042) と ③ (043) でロールプレイング練習をさせます。 最初に先生が見本を示し (②でめぐみのセリフ, ③でサムのセリフを言う), 次に生徒に行かせます (一斉)。何度か繰り返して暗記できたら、先生と生徒、隣同士や前後の生徒等のペアワークをさせます。	<ul style="list-style-type: none"> ・最初はテキストを見ながら行わせ、慣れてきたら、テキストを閉じて暗唱させましょう。 ・ペアワークでは、Megumi のところを相手の名前に変えさせましょう。 ・余裕があれば, ペアワークを発表させましょう。
10分	L17 ④ (044) の音声を聞かせます。 1～3回聞いて音声に慣れたら発音練習をさせます。 this「これ」, that「あれ」, it「それ」は初出なので、しっかり意味を説明します。 this: 近くにあるものを指す that: 離れているものを指す it: 前に話に出た1つのものを指す。日本語に訳さないほうが自然な場合が多い ①と②について、発音練習をさせます。その後、先生と生徒、隣同士や前後の生徒等のペアワークをさせます。	<ul style="list-style-type: none"> ・最初はテキストを閉じて音声に集中させましょう。 ・次に音声を聞きながらテキストでつづりを確認させましょう。 ・①と②の発音練習は一斉 (1文→1発言 [セリフ] → 対話) → グループ (半分サム役, 半分めぐみ役→役入れ替え) のようにパターンを変えて何回も行いましょう。 ・余裕があれば, ペアワークを発表させましょう。 ・余裕があれば, 先生が教室内にあるものを指して What is this [that]? とたずねて生徒に答えさせたり、生徒に What is this [that]? とたずねさせて先生や別の生徒に答えさせたりしましょう。
5分 (まとめ)	㉔ (クイズ) に取り組みせ、答え合わせをします。 答え合わせのときは、最初に先生が選択肢を発音し、次に生徒に発音させて、意味を確認させます。 宿題 ①～④の音声を聞いて、聞いた曜日に○をつけること	<ul style="list-style-type: none"> ・反応が鈍い場合や時間が足りない場合は, L17 ④に Is this …? と What is that? が, L9 ② (p.22) に What do you want? があることを教えて、正解を見つけさせましょう。 ・㉔ (クイズ) に正解した生徒には巻末の「クイズ得点チェック表」の色塗りをさせましょう。